

## 保 育 業 務

### 笠間市立幼稚園

#### 1. 目的

幼児を保育し、地域の特性や幼児の実態を踏まえ、身近な自然環境の中でのその心身の発達を助長することを目的とする。

#### 2. 内容

日々の保育の中で自然や行事を通じた体験活動を進め、幼児期における道徳性の芽生えを培うなど、心豊かな健康でたくましい子を育成する。

#### 3. 実施状況

##### (1)笠間幼稚園

園児数 (定員 260名)

3歳児(年少)31名, 4歳児(年中)41名, 5歳児(年長)51名, 合計123名 各学年2クラス

職員数

正職員3名 臨時職員6名 合計9名

たくましく生きる力を育てるために次のようなことを実施している。

- ・自然との触れ合いを大切にした保育の充実
- ・道徳性の芽生えを育む心の教育の充実
- ・地域との触れ合いを大切にされた保育の充実
- ・家庭との連携の充実

(年間行事としては、芋苗植え、親子遠足、運動会、芋ほり、焼き芋パーティー、親子陶芸教室、菊祭り会場見学、園外保育(芸術の森公園)、もちつき、発表会、小学校との交流等を実施している。)

##### (2)稲田幼稚園

園児数 (定員 140名)

3歳児(年少)28名, 4歳児(年中)21名, 5歳児(年長)25名, 計74名 各学年1クラス

職員数

正職員3名, 臨時職員4名, 合計7名

豊かな心を育むために教育課程・年間指導計画のもとに保育を行っている。

- ・身近な自然に親しむ保育
- ・地域との触れ合いを大切にされた保育
- ・道徳性の芽生えを育む保育
- ・家庭との連携の充実

(年間行事としては、芋苗植え、親子遠足、運動会、芋掘り、焼き芋パーティー、親子陶芸教室、菊祭り見学、そば会、餅つき、発表会、ゲートボール教室、サッカー教室、小学校との交流等を実施している。)

#### 4. 内部評価

地域の特性を生かした体験活動は、園児の豊かな心の育成につながるもので、現行どおり実施することが重要である。

幼稚園の入所者数が半数程度と減少しており、少子化の進行が予想されるため、幼稚園においても適正配置の検討が必要となっている。

#### 5. 外部評価委員会の意見

必要性		有効性		効率性		総合評価	
<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input type="checkbox"/> 非常に高い	<input checked="" type="checkbox"/> ある程度認められる	<input type="checkbox"/> 現行どおり継続	<input checked="" type="checkbox"/> 改善し、継続
<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> 休止又は縮小	<input type="checkbox"/> 民間に移管
<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 事業完了
<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い		

○幼児教育の重要性は言うまでもないこと。教師の不足という悩みは大きいことは理解できるので、その解消に向け検討は、必要だが少子化の現実を踏まえ、国自体の将来像を市当局が考えておくことも大切。

○平成21年度で見ると必要性・有効性は高く現行どおりの継続はやむをえないと認められるが、入園児数が定員の半数以下となっており、今後の少子化の更なる進展を考慮すると、早急に適正配置を検討すべきであり、その上で市全体をカバーする体制の必要性を含めた検討を行うべきである。

○園生活は、子どもにとって初めての集団生活であり、その中における日々の体験は、個々の成長の大きな糧になっていくと思います。多種多様な行事に感心しました。昨今、親の子どもに対する事件が多くなっています。幼児教育のみならず、家庭教育学級のような場、あるいは、日常の接点を含め、親に対する”教育”も大事になっています。保護者への働きかけもお願いしたいです。公立が2園しかない（それも笠間地区のみ）ことの問題は定員の充足も含め、考えていく必要があると思います。

#### 6. 外部評価に対する改善等の取り組み

幼児期にふさわしい指導計画をきめ細かに作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行い、心豊かな健康でたくましい子を育成する保育を継続実施してまいります。

また、日々の保育や家庭教育学級などを利用し、保護者の悩みや要望を受け止めつつ、園での幼児の姿を具体的に伝えながら、家庭と協力・連携して幼児の健やかな発達を促すと共に親の役割や家庭の在り方を再認識するなど、子育て支援に努めてまいります。

将来の幼稚園の在り方については、関係機関と連携を図りながら検討してまいります。

